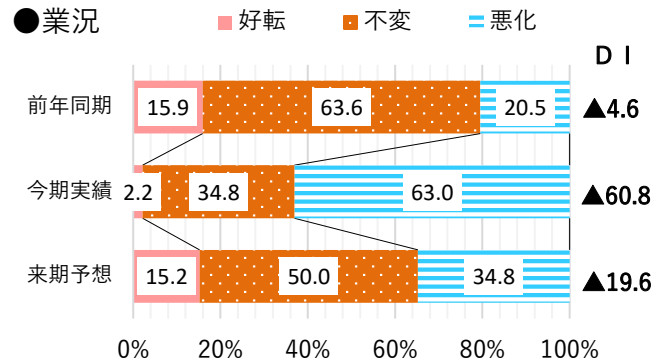


製造業

業況、売上、採算

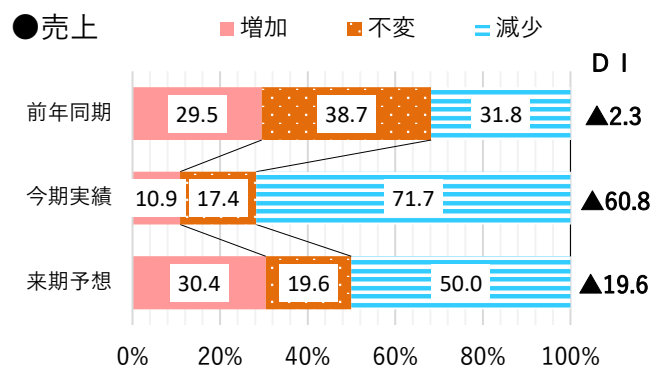
今期(2020.4～6)の業況判断DIは▲60.8で、前年同期(2019.4～6)と比べ56.2ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期(2020.7～9)は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



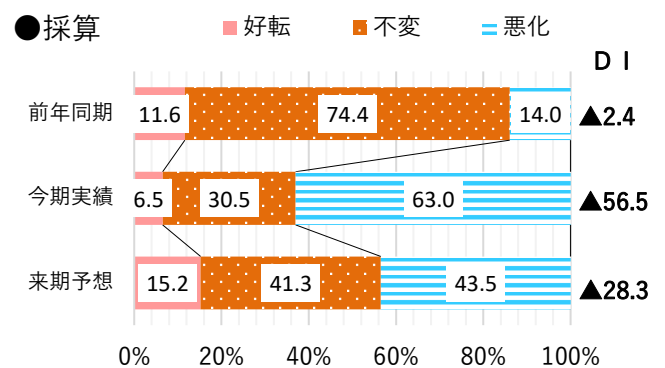
今期の売上DIは▲60.8で、前年同期と比べ58.5ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

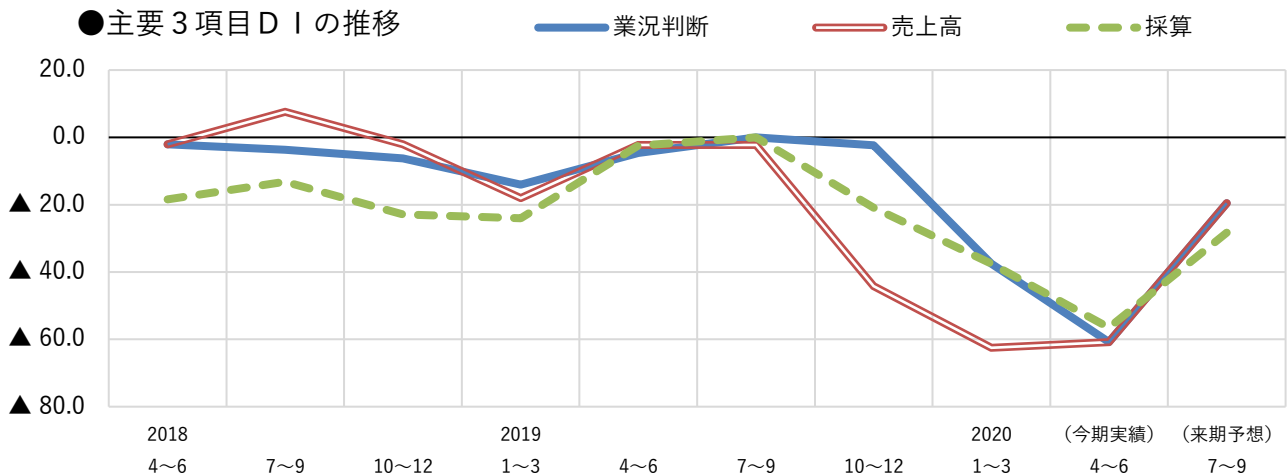


今期の採算DIは▲56.5で、前年同期と比べ54.1ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



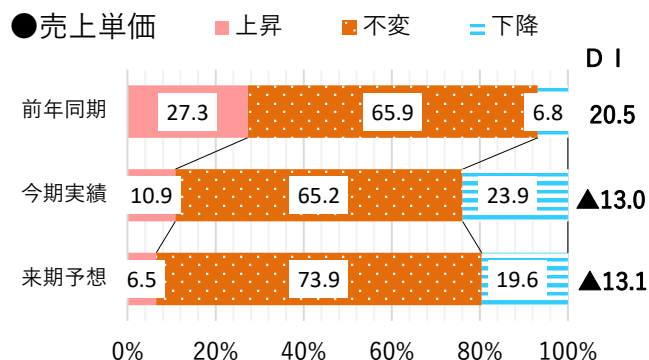
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

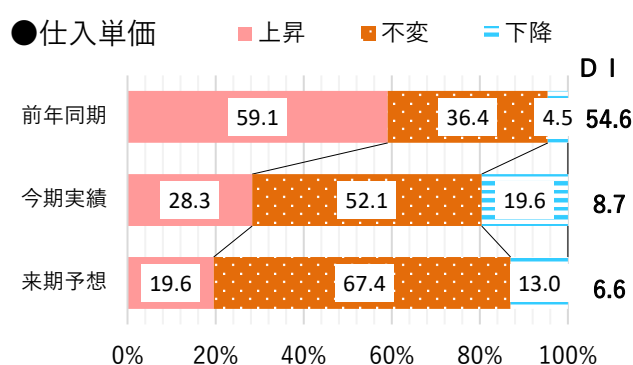
今期の売上単価DIは▲13.0で、前年同期と比べ33.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上単価のほぼ横ばいを予想しています。



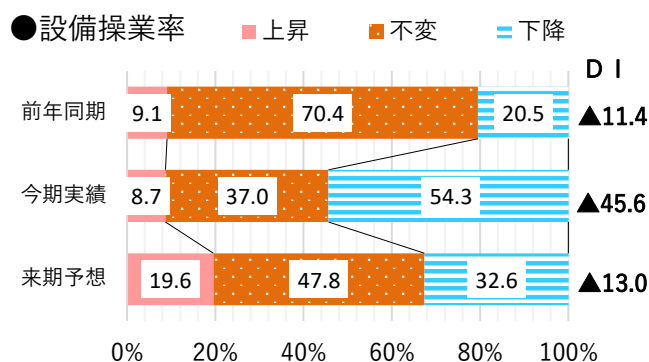
今期の仕入単価DIは8.7で、前年同期と比べ45.9ポイント低下し、大幅に下降しました。

来期は、仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲45.6で、前年同期と比べ34.2ポイント低下し、大幅に下降しました。

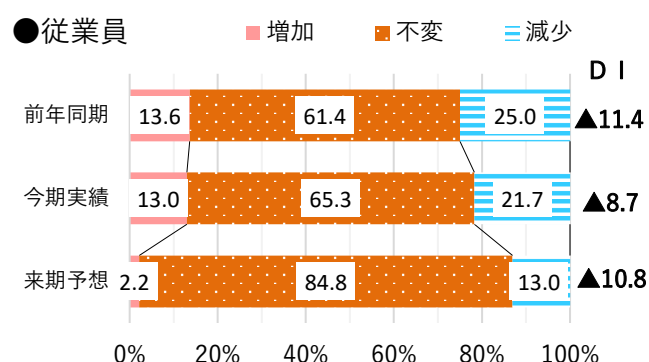
来期は、設備操業率の下降傾向が大幅に弱まると予想しています。



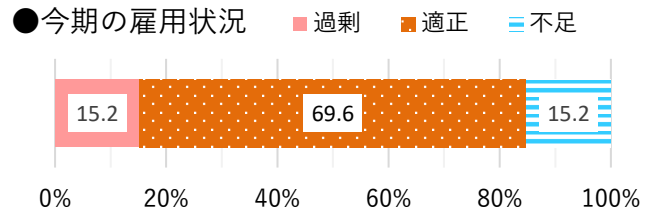
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.7で、前年同期と比べ2.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は15.2%、適正であると回答した企業の割合は69.6%、不足していると回答した企業の割合は15.2%でした。



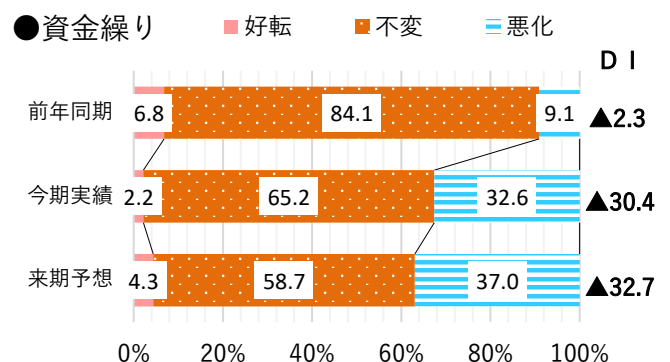
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の47.8%を占めています。

| 今期従業員数 | 今期の雇用状況 | 回答数 |
|--------|---------|-----|
| 増加した | 過剰 | 1 |
| | 適正 | 5 |
| | 不足 | 0 |
| 不変だった | 過剰 | 3 |
| | 適正 | 22 |
| | 不足 | 5 |
| 減少した | 過剰 | 3 |
| | 適正 | 5 |
| | 不足 | 2 |

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」（同位）という回答でした。

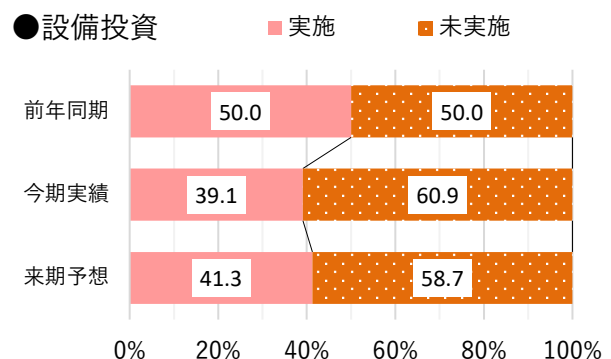
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲30.4で、前年同期と比べ28.1ポイント低下しました。



来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。

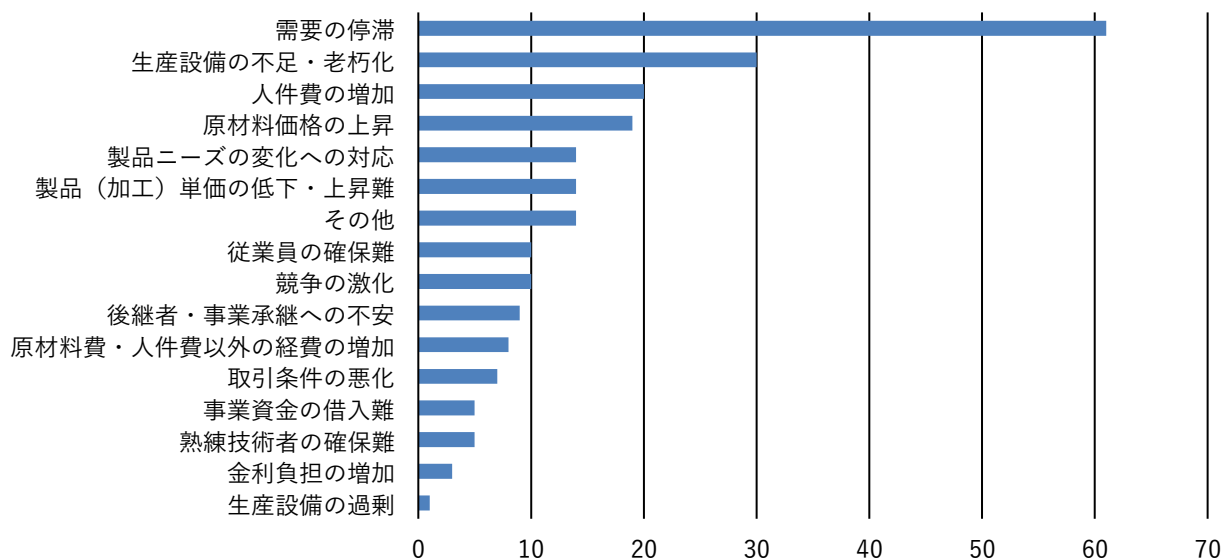
設備投資を実施した企業の割合は39.1%で、前年同期と比べ10.9%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は41.3%で、増加を予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 高炉2基の稼働を3分の1程度停止させ、電炉の稼働は臨機応変に対応した。鋼板の供給力は前年同期比で4分の3に低下した。業界に不況感が出始めており、前年同期比で道内需要が1割程度減少、物件数は4分の3に低下した。プラント等の物件が停滞しており、4分の1程度の進捗である。（金属製品）
- 冬場にかけて製作していた製品が予定通り出荷され、順調に売上、利益につながった。（金属製品）
- 新型コロナウイルスの影響で、経営が不安定な状況にある。（金属製品）
- 新型コロナウイルスの影響で、食品製造業者向けの包装資材の売上が減少した。また、工場の稼働低下によって採算が悪化した。（プラスチック）
- 住宅、建設関係の動きが鈍いが、医療関係が好調である。（プラスチック）
- 新型コロナウイルスによる消費の低迷、企業の営業自粛で売上が減少した。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルス流行により、売上が減少した。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスの影響で、土産品の需要が低下したため、売上、採算が悪化した。（紙製品）
- 売上が極端に減少した。（家具建具）
- 新型コロナウイルスの影響で業務用OEMの受注が減少したため、前年同期の売上に到達しなかった。輸入原料等の仕入価格が高騰した。人材は採用しやすくなっており、今後を期待している。派遣社員の賃金は据え置きで、雇用を継続する。（食料品）
- 前々期に開発、販売を開始した加工品の売上が絶好調で、業況が好転した。主力原料の仕入単価が上昇したため、仕入を抑制する予定である。新型コロナウイルスの影響で、人材確保が円滑である。（食料品）
- 新型コロナウイルスによる需要の減退が、売上等の減少の大きな原因である。昨年の秋頃から消費の力強さが失われているように感じていたが、その傾向がより一層強まったと思う。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響で飲食業が不振のため、原材料仕入価格が下降し始めており、ほたて、えび、鮭の価格は20%前後下降した。（食料品）
- 物産展の中止と、土産品の販売停止により売上が10%減少した。小豆の仕入価格が上昇した。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響で、売上が多少減少した。（食料品）

- 売上が減少したため、特売品の数を増加した。（食料品）
- 売上が前年同期比で70～80%減少した。（食料品）
- 製品の販売不振により、受注が減少した。（食料品）
- 新型コロナウイルス感染対策として、営業活動を自粛したため、対前年度比の売上が10%弱減少した。（飲料）
- 新型コロナウイルスの影響で、出荷量が減少した。（医薬品）
- 美装、歯科技工所向けの売上がゼロになった。（油脂加工品）
- 新型コロナウイルスによって、業況が大きく悪化した。（印刷）

[来期の業況について]

- 国と道の景気対策、新型コロナウイルスとユーザーの動向に左右される。新型コロナウイルスの次の流行は秋以降と予想しているユーザーが多く、減少の一途だった引合いも増え始めた。（金属製品）
- 今期同様、今まで滞留していた製品の出荷が進めば、今年度で最も大きな売上が見込まれる。昨年同期比では大幅な増加となるが、年度通しての売上は例年通りになる見込みである。（金属製品）
- 原材料仕入単価の下降が見込まれ、繁忙期に入るため、業況の回復が見込まれる。（プラスチック）
- 医療関係での増収を見込む。（プラスチック）
- 新型コロナウイルスの終息には時間がかかるだろう。（ゴム製品）
- 青果物の需要が高まるため、売上は増加するが、新型コロナウイルスの影響で採算は悪化するだろう。（紙製品）
- 今期の業況が非常に悪いいため、相対的に好転する見込みであるが、好況にはならないだろう。（家具建具）
- 多少の改善は見込まれるが、油断できない状況が続くだろう。（家具建具）
- 新型コロナウイルスによる経済活動の鈍化による、業績の悪化を懸念している。（衣服）
- 新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明だが、官公庁からの発注減少を見込む。（その他繊維製品）
- 若干の回復が見込まれるが、売上は前年同期比で50%程度減少するだろう。前年同期比と同程度の同程度の水準まで回復するためには、1～2年必要だと思われる。（食料品）
- 今期好調だった加工品の売上が一服するだろう。新型コロナウイルスの影響が不透明で、仕入単価や仕入数量の見通しも立たない。（食料品）
- 売上は不変または5%程度の上昇を見込んでいる。小豆の仕入価格は下降を予想する。2%程度の賃金上昇を計画している。（食料品）
- これまでは新型コロナウイルスの影響を受けなかったが、最近取引先の荷動きが悪いため、製造量を減らす見込みである。（食料品）
- 戦略の変更と商品の見直しを図り、売上や利益の確保、業務効率化を目指す。外国人スタッフの雇用も再開したい。（食料品）
- 新型コロナウイルスの流行が長引けば、売上や消費に影響する可能性がある。（食料品）
- 需要の減退は1年半から2年ほど続くのではないか。（食料品）
- 原材料安が続くと思われる。（食料品）
- 業況の好転は見込めない。（食料品）
- 悪化を予想する。（食料品）
- インターネットでの販売強化に伴う、業績の回復を見込んでいる。（飲料）
- 新型コロナウイルスの影響で、見通しが立たない。（医薬品）